



国際

沿岸リポート

IAPH国際港湾協会 中間年総会と パナマ運河拡張計画・ 現地視察

一般財団法人沿岸技術研究センター
調査部調査役 菊地洋二

1. はじめに

2016年5月11～13日にかけて、国際港湾協会（IAPH；The International Association of Ports and Harbors）の中間年総会が中米パナマ市で開催されたので、出席してきました。IAPH国際港湾協会は、世界の港湾関係者の交流を目指して1995年に設立された機関です。開催地であるパナマでは、本年6月27日に拡張したパナマ運河の開通を控えており、総会期間中には、現行の運河閘門と大西洋側に新設した拡張閘門を視察することができました。

2. 国際港湾協会中間年総会

中間年総会ではオープニング・セレモニーで成瀬進IAPH事務総長他の挨拶があり、その後のセッションではパナマ運河拡張等について多く



の報告がありました。総会壇上がコンテナをあしらってレイアウトされ、夕方には華やかなウェルカムディナーが催されるなど、中米ならではの活気ある雰囲気がみなぎっていました。

3. パナマ運河拡張計画と現地視察

パナマ運河は、1914年に完成し、百万隻目は2010年9月4日に達成されています。現在は、年間14,000隻（日平均約40隻）が通航する最も重要な貿易ルートになっています。

パナマ運河拡張プロジェクトは2007年9月に始まり、このたび開通の運びとなりました。現行のパナマックス船型と拡張後の大型船（ネオパナマックス船型）を比較すると、表のようになります。輸送量でほぼ倍増する大きさです。

	現行 (PANAMAX)	拡張後 (NEOPANAMAX)
全長	294.1m	366.0m
船幅	32.3m	49.0m
喫水	12.0m	15.2m
コンテナ船	約5,000TEU	約13,000TEU
バラ積船	約80,000DWT	約170,000DWT

80kmにおよぶ地峡の分水嶺にはガツン湖（Gatun Lake）という湖があり、湖面の水位は海水面より26m高くなっているため、船舶は海水面からガツン湖面まで昇り、再び反対側の海面まで降りる必要があります。このためパナマ運河では閘門（locks）方式が採用され、船舶が入渠してから閘門の前後を水門で締め切った後、注水（排水）して次の閘門の水位まで上げ（下げ）、順次船舶を移動させていきます。拡張計画の主要な内容は、①現行運河の増深と新規水路の建設、②大西洋側及び太平洋側の新閘門（Third set of locks）と水位調整池（basins）と隔室（chambers）の建設です。

現行の水門は観音開きのマイターゲート方式ですが、新閘門では片側から水平にスライドするローリングゲート方式になっています。新閘門の水位操作は、3連の水位調整池（basins）と隔室（chambers）が地下のカルバートで結ばれていて、それぞれの水位に応じてバルブ操作で行うようになっています。今回の現地視察では、現行のミラフロレス閘門（Miraflores locks）と大西洋側の新閘門（Third set of locks）を見ることができました。現行閘門でも短時間での船舶移動がなされていましたが、新閘門ではより効率化・大型化が図られていることがわかりました。



現行閘門(Miraflores locks)

4. おわりに

今回、日本から20時間以上かかる中米パナマに足を運び、国際会議への出席とともに、世紀的なプロジェクトであるパナマ運河拡張計画の一端を現地で実感することができました。行動を伴にいただいた中米港湾事情視察団（団長：中尾成邦国際港湾協会日本会議会長）の皆様に厚く御礼申し上げます。



新閘門(Third set of locks)

大西洋側→

水位調整池(basin)

ガツン湖

水位調整隔室(chamber)

ローリングゲート